

科目名	文学特殊研究 [院]					単位	4.0
担当教員	服部 仁						
授業形態	講義	開講期間	通年	配当年次	1	授業番号	2384

●授業のテーマ

日本近世文学研究

●到達目標

著者齡松寺の僧の執筆意図を理解し、その上で、江戸時代の読者の受容態度について判断できるようになる。

●学習内容(授業概要)

日本文学を主として研究する。人間の精神的営為の表出である文学を考究することによって、そこに表われた人間の生き方や精神行動を深く学び、個々の研究テーマに沿って、立体的に発表を行う。

そもそも日本文学の研究は、平安時代に『後撰和歌集』の選者で梨壺の五人と言われた人たち（大中臣能宣・清原元輔・源順・紀時文・坂上望城）によって、『万葉集』の読解をしたことに端を発するという。さすれば、1000年以上に渡って営々と研究を積み重ねてきたのが、国文学、日本文学という学問体系なのである。その長期間に亘って研究が進められた結果として、国文学、日本文学という学問が、究極の人間研究に収斂されるべき学問であることは疑いない。

こうしたことを踏まえた上で、天明八年正月京都の大火で類焼した真宗大谷派本山の東本願寺再建の材木を得るために、遠州浜松齡松寺の僧が、「信濃駿河遠江四ヶ国へかゝりて凡四十里四方といひならはせし遠山といへるに、槻の大立木あるよし」を聞き、見聞に出かけた時の、奇聞を書き記した『遠山奇談』（寛政十年刊）を読んでみる。紀行文的な読本である。

●学習内容(授業計画)

《前期》

1. 日本近世文学の中の紀行文学
2. 読本としての紀行文学
3. 序文
4. 発端
5. 材木を尋ね求むること
6. 遠山へ初めて山入りのこと
7. 天竜川しいがわき明神、田村丸石碑のこと
8. 四十八瀬川
9. 光明山、同つりがねの由来
10. 牡丹山、京丸之里のこと
11. 秋葉奥の院、百五十間、蛭虻のこと
12. 盃水、山住権現、みさくぼ川、かけはしのこと
13. 奥山平太郎やしきに逗留し、獵師吉兵衛をやとひ深山に入る
14. けやきの大木多く見付けること
15. 山中にはじめて一宿し、大ひきがへるに逢うこと

《後期》

1. 大木の中より大鳥飛びさり、三尺ほどの鏡のこと
2. ちょうちん木の物語のこと
3. 小畑へふたたびかへらんといふこと

4. 平左衛門家にて墓のわけを聞て又驚くこと
5. 青くづれ山、西ざわ山、七つ釜、いづれも嶮岨のこと
6. 山中に宿り白き怪獣に会ふ
7. 猛火飛行し、人ごちなきこと
8. 山中に宿り、けしからぬものに出合
9. 夢の告あること
10. きじんの家にやどる
11. ころび木を見出すこと
12. 都方の役つかた山入之こと
13. 岩吉山にまよふこと
14. 岩吉に逢てつれかへり天狗につかまれしと考ること
15. 天狗の事を論じて法義に合しよろこぶこと

●準備学習・事後学習の内容

必ず、授業のテーマの周辺を予習して出席すること。特に、地図で場所を推定しておくこと。

●成績評価方法・基準

平常点（普段の発表）60% レポート 40%

●テキスト（必携）

授業時に写しを配布する。

●参考文献／その他

適宜、指示する。

●履修上の注意

皆出席することは当然です。